

絶滅危惧類 カヤツリグサ科

ヒロハイッポンスゲ

Carex pseudo-loliacea Fr. Schm.

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての生育地で生育条件が悪化

【形態】 ミズゴケ湿原に生える多年草で疎に叢生する。茎は高さ20～40cm。基部の鞘は褐色～赤褐色、葉は灰緑色で幅1.5～3mm、小穂は3～4個で灰白色ですこし淡汚黄色を帯びる。小穂は稈頂に密集し雌雄性で基部の少数は雄性、他は雌性で長さは4～7mmである。柱頭は2本。果苞は長楕円形で長さ3.5～4mm、多数の太い脈がある。上部は急に狭くなりほとんど嘴はない。口部は2歯となる。6～7月に熟す。

【分布】 北海道・福島県・山形県に分布する。国外では、樺太・千島に分布する。

【県内の分布、生育状況】 吾妻連峰の尾根部に生育する。

【生育に影響を与えている要因】 踏みつけ、登山道の整備

【特記事項】 生育地での踏みつけを防止するとともに、競合するイネ科植物の除去が望まれる。

【主要文献】

杉本順一．1973．日本草本植物総検索誌 単子葉編．井上書店．

秋山茂雄．1955．極東亜産スゲ属植物 北海道大学．

絶滅危惧類 カヤツリグサ科

ヒロハオゼヌマスゲ

Carex traiziscana Fr. Schm.

全国カテゴリー；準絶滅危惧

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 ミズゴケ湿原に近い林内草地に生える多年草。根茎は疎に叢生し、茎の高さ40～60cm。葉は白緑色で幅3～4mm。小穂は多少ジグザグに曲がり中軸に穂状につく。小穂の基部の少数は雄花、他は雌花。雌花の鱗片は卵形で赤褐色、背部は淡色の1脈になる。果苞は広楕円形で長さ3mm、斑点が密布し多数の脈があり、短に嘴になり口辺は微かに2裂する。柱頭は2本。6～7月に熟す。

【分布】 北海道(北見・石狩)と尾瀬ヶ原周辺にだけ分布する。国外では、樺太・カムチャッカに分布する。

【県内の分布、生育状況】 尾瀬の湿原の周辺部、ミズゴケ湿原にわずかに生育している。

【生育に影響を与えている要因】 遷移進行、踏みつけ

【主要文献】

奥山春季．1983．原色日本野外植物図譜 2 夏・高山植物．誠文堂新光社．

吉川純幹．1960．日本スゲ属植物図譜 第三巻 北陸の植物．